

<今日の説教のポイント ヨハネによる福音書1節6～18節>
先週に引き続き、興味深い冒頭部分を深く味わいたいと思います。

1 (9-11) ヨハネ福音書のもう一つのキーワード「世」。

「言」「命」「光」(1-5)と共に、ヨハネ福音書全体で重要なキーワード「世：κοσμος コスモス」がここに出てきます。「宇宙、(被造)世界」のギリシア語の原語ですが、ヨハネ福音書では「神様やイエス様に敵対するこの世(7:7, 15:18)」を指すことが多く、しかし同時に、その「世」はイエス様の伝道の対象でもあり、イエス様は「世の」救い主なのです(ここ、3:16以下)。そして、17章ではイエス様を信じる私たちのことを「世」と関係させてイエス様が祈って下さっています。それは、「あなたがたには世では苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(16:33)と言われた後に続いて祈って下さっている点が重要です。なぜかを次に考えます。

2 先在の御子が私たちの間に来て下さった。そこに見る恵みと真理。

洗礼者ヨハネは、イエス様のことを「私よりも先におられたからである」(15)と言って崇めています。これはイエス様が時間的に自分より少し前に生まれたなどといったことを言っているのではなく(実際違う)、元々「神と共にあった、神であった」(1:1)ことを指しているのです(先在のイエスと表現)。その方すなわち神様が「私たちの間に宿られた(受肉)」(14)という不思議極まる内容を信じ告白し続けて来たのが教会なのです(ニカイア信条)。なぜなら、そこにこそ、神に背を向けて生きて来た人間をなお見捨てず、罪赦して下さる神様の「恵みと真理」(14, 17)を見ることができるからです。

3 「恵みと真理」も、ヨハネが繰り返し語る言葉！

阿部謹也氏が日本独特の、この世を社会ではなく世間として捉える問題性を論じ、個人の確立がどこから来るのかを私たちの造り主にして救い主なる神様との関係を持つかどうかに見ています。私たちもヨハネが伝える「この世の贖い主となって下さったイエス様」に出会い、私たちの中にもある「世」の問題に気づき、イエス・キリストの「光」の中を歩む者になりたいと思います。その時に、どんなこの世的な苦難にあっても、イエス・キリストによって私たちに与えられた「恵みと真理」がどれだけ大きな幸いかが分って来るからです。